

平成25年度

大分大学大学院工学研究科
博士前期課程
(第2次)

学 生 募 集 要 項

一 般 入 試
社 会 人 入 試

出願期間:平成25年1月21日(月)~1月25日(金)
試験期日:平成25年2月4日(月)~2月5日(火)
※社会人入試は2月5日(火)のみ
合格者発表:平成25年2月15日(金)

平成24年11月



個性人、未来を拓く。

大分大学

OITA UNIVERSITY

目 次

ページ

○大分大学大学院工学研究科博士前期課程アドミッション・ポリシー	1	
○一般入試（筆記型）		
1 募集人員	4	
2 出願資格	4	
3 出願手続	5	
4 出願書類等	6	
5 障がいのある者等の事前相談について	7	
6 選抜方法	7	
7 選抜日時及び試験科目	8	
8 試験会場	9	
9 合格者発表	9	
10 入学手続	9	
11 入学料及び授業料	9	
12 注意事項	9	
○社会人入試		
1 募集人員	10	
2 出願資格	10	
3 出願手続	10	
4 出願書類等	11	
5 障がいのある者等の事前相談について	11	
6 選抜方法	11	
7 面接試験の日程、内容	12	
8 試験会場	12	
9 合格者発表	12	
10 入学手続	12	
11 入学料及び授業料	12	
12 注意事項	12	
13 その他	12	
○工学研究科博士前期課程案内		
1 専攻の概要	13	
2 専攻別授業科目	14	
○平成 26 年度入学者選抜試験の出願資格の変更について（予告）		17
○出願様式等		
入学志願書, 履歴書		
受験票, 試験会場案内図		
入学検定料払込証明書（大学提出用）貼付欄		
研究（希望）計画書		
職務経歴書		
払込取扱票		
合格通知用住所シール		
受験票返送用封筒		
出願用封筒		

大分大学大学院工学研究科博士前期課程アドミッション・ポリシー

基本理念

質の高い特色ある教育と研究を通じて、世界に通用する科学技術を創造し、もって地域に貢献するとともに、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成することです。

教育・研究の目標

学生の立場にたった教育体制のもとで、自らの課題を探究する高い学習意欲と柔軟な思考力を有し、国際基準を満たすゆるぎない基礎学力と高度の専門知識を備えるとともに、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を養成することです。

求める学生像

工学研究科博士前期課程では、環境や社会に対する影響も予見しながら自然との共生や、真に人類に役立つ技術とは何かを自ら考え、先進的科学技術によって人類福祉に貢献する意欲をもち将来への可能性を秘めている人を求めています。

以上の観点と本学の求める学生像から、具体的には、次のような人を求めています。

1. 工学の分野に強い関心があり、深い専門知識と高度の技術を身につけることをめざしている人
2. 新しい課題を自ら見いだす着想力をもち、問題の解決に際しては計画的に調査や研究を行うことのできる強い意志をもっている人
3. 国際的な視野を有し、国際的に通用する能力や技術の獲得をめざしている人
4. 地球規模での課題に問題意識をもち、それらの課題と技術との融合について関心をもっている人

特に、各専攻では、次のような人を求めています。

〈機械・エネルギーシステム工学専攻〉

本専攻は、機械に関する基礎技術と利用技術、メカトロニクス、ロボティクスなどの制御の分野、新エネルギー、エネルギーの有効利用に関する技術開発および利用技術に重点を置く、機械工学・電気工学の総合的な教育と研究を行います。

以上のような教育理念に基づき、本専攻では次のような人を求めています。

1. 数学及び物理に関する基礎学力を備え、国語及び英語に関する基礎的な語学力も有し、自分の意見を論理的に説明できる人
2. 自ら問題を見だし、計画的にその解決をめざすことができるリーダーシップと行動力をもっている人
3. ものづくりに興味があり、そのために必要な深い専門知識を身につけて創造的な技術者や研究者となることをめざし、それによって人のために役立ちたいという強い意志をもっている人
4. 地球規模での課題に問題意識をもち、それらの課題と技術との融合について関心をもっている人

〈電気電子工学専攻〉

本専攻は、電気、電子、情報、通信等に代表される電気電子工学の広範な分野の中で、社会や環境に対する影響も予見しながら、人類の幸福・福祉に役立つ技術とは何かを積極的に考え、技術の発展や学問の進展に貢献することのできる人材の育成を目的にしています。

以上のような観点から、本専攻は次のような人を求めます。

1. 学部での基礎・専門科目の内容をよく理解して、最先端レベルでの電気電子工学の専門科目を学ぶために十分な能力をもっている人
2. 様々な学問分野に関心があり、その基礎や応用について自ら学び理解しようという知的好奇心

をもっている人

3. 柔軟な着想力を持ち、何事にも積極的にチャレンジする行動力をもっている人

〈知能情報システム工学専攻〉

情報は現代の人間社会を構成する最も重要な要素であり、これを取り扱う技術が社会を左右することは既に明白な事実となっています。このような社会において、より高度で知的なIT（情報技術）の開発、普及が社会を発展させる源になると考えられます。

本専攻では、人の知を拡大する新世代知的IT革命の担い手となる国際的技術者・研究者を育てるという教育理念に基づき、次のような人を求めます。

1. 基礎から応用までの先端的な情報技術について学習と研究に取り組むことができる基礎的な能力と旺盛な知的好奇心をもっている人
2. 高度情報化社会において、新たな課題を自ら見つけだし、解決することを通じて、地域社会や世界に貢献したいという高い志をもっている人
3. 豊かな感性と表現力・コミュニケーション能力を持ち、高度情報化社会の牽引者となることを志している人

〈応用化学専攻〉

私達が将来にわたって地球上で共存し幸福に暮らしていくためには、エネルギー・情報・環境に関して生じてくる複雑な問題を科学的に解決していかなければなりません。化学は物質の存在形態と変化の本質を明らかにしようとする学問ですから、種々の課題の解決における化学の知識と技術の重要性は、新しく形を変えつつますます大きくなってきています。

本専攻は、私達の生産活動、毎日の生活や自然現象を化学的な立場から自ら進んで考え、化学技術によって人類福祉に貢献することのできる技術者、研究者の養成を目標にしています。

応用化学専攻の教職員は、一生懸命自分を高めようと頑張る学生諸君を力いっぱい支援します。

以上の観点から、本専攻では次のような人を求めています。

1. 自然界や人間社会、産業社会のさまざまな状況について高い問題意識を持ち、化学的観点から解決しようとする意欲をもっている人
2. 化学的現象について興味を持ち、工学的立場から解明しようとする意欲をもっている人
3. 化学、物理、数学などについて専門分野を学ぶために必要となる基礎学力をもっている人
4. 英語、国語の基礎的語学能力をもとに、与えられた課題について論理的かつ柔軟な発想で考察し、発表することができる人
5. 化学に関連する各種専門分野について、高度な知識や能力を身に付け、技術者・研究者として活躍する強い意志をもっている人

〈建設工学専攻〉

本専攻は持続可能（サステナブル）な生活環境を構想し、これを維持・発展させながら、より安全で安心して暮らせる社会を、建築学の立場から構築して行くことを目標としており、以下のような高い意欲と強い情熱を持つ人を求めています。

1. 建築学を構成するそれぞれの専門分野に応じた立場から社会に貢献するため、先端の知識を理解し、高度な技術力を修得しようとする人
2. 建築の技術・機能・社会性・経済性・芸術性を包括的に把握し、総合的な視点から意思伝達のできる能力を高めようとする人
3. 専門知識を研究課題設定に応用し、研究遂行において生じる問題点を克服する解決能力を身に付け、得られた知見を論理的に記述・伝達する能力を養おうとする人

〈福祉環境工学専攻〉

本専攻はすべての人が幸福を感じられる高度福祉社会を、工学的側面から実現するための研究開発と人材養成を行うことを理念にしています。本専攻ではこのような目標に向かって努力できる人を求

めています。

・建築コース

住環境向上の側面から高度な福祉社会実現を構想し、安全で安心して暮らせる社会を具現化して行くことを目標としており、以下のような高い意欲と強い情熱を持つ人を求めています。

1. 福祉環境構築のためのそれぞれの専門分野から社会に貢献するため、先端の知識を理解し、高度な技術力を修得しようとする人
2. 生活環境向上のための工学技術を社会性・経済性・芸術性などから包括的に把握し、総合的な視点から意思伝達のできる能力を高めようとする人
3. 専門知識を研究課題設定に応用し、研究遂行において生じる問題点を克服する解決能力を身につけ、得られた知見を論理的に記述・伝達する能力を養おうとする人

・メカトロニクスコース

メカトロニクスとは、電気電子工学、機械工学、制御工学、情報工学等の基盤技術を統合して扱う工学です。本コースでは、すべての人々にとって生活の質の高い社会を実現するための工学を「福祉工学」と位置づけ、その実現のためにメカトロニクス技術を利用することを考えています。このような技術による装置は、今まで人しかできなかった作業を可能にしたり、機能の障がいを持った人を支援したりすることに役立てられます。

本コースでは、メカトロニクス技術を通じて社会のニーズに貢献する高度な技術者・研究者の育成を目標とし、次のような人材を求めています。

1. 研究・開発能力を培うのに必要な電気・電子工学又は機械・制御工学を主とした専門基礎学力を有する人
2. 自ら課題を見つけだし、その解決に意欲を有し、研究に主体的に取り組む人
3. 人の生活の質の向上を目指す「福祉工学」分野の研究や技術開発を通して、社会に貢献したい人
4. 機械工学・電気電子工学・生体工学・人間工学などの幅広い分野を含めた「福祉」を目的とした学際的工学分野に興味がある人

入学者選抜の基本方針

本研究科では、前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、一般入試のほか社会人入試及び外国人留学生入試を実施し、学生を選考します。

・一般入試（口述型・筆記型）

口述型では、学部での成績が極めて優秀である者か、あるいは、志望する専門分野に関する十分な基礎能力を持つ者として出身大学等により推薦された者に対して、専門基礎学力に関する口述試験による学力検査及び出願書類審査を総合して判定します。

筆記型では、入学者の選抜は、学力検査（筆記試験及び面接試験）及び出身大学等の成績証明書を総合して判定します。

・社会人入試

各種の研究機関、企業又は教育機関等で活躍している社会人の研修の継続あるいは自己再教育の場として本学大学院工学研究科博士前期課程を開放し、併せて、生涯教育に寄与することを目的としています。入学者の選抜は、書類審査及び面接の結果を総合して判定します。

・外国人留学生入試

入学者の選抜は、学力試験、面接試験及び書類等を総合して判定します。

一般入試募集要項（筆記型）

1. 募集人員

専攻	コース	講座	募集人員
機械・エネルギーシステム工学専攻	機械	機械システム	若干名
電気電子工学専攻	電気	制御コミュニケーション, 電磁ダイナミクス	若干名
知能情報システム工学専攻		情報科学基礎, 計算機システム, 知能システム	若干名
応用化学専攻		工業化学基礎, 応用生物化学, 機能物質化学	若干名
建設工学専攻		環境計画, 構造設計	若干名
福祉環境工学専攻	建築	人間環境工学	若干名
	メカトロニクス	人間基礎工学, 人間システム工学	

※一般入試（第2次）は、筆記型のみの募集です。

※機械・エネルギーシステム工学専攻エネルギーコース及び電気電子工学専攻電子コースは、募集を行いません。

2. 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び平成25年3月までに卒業見込みの者
- (2) 大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び平成25年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成25年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成25年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成25年3月までに修了見込みの者
- (6) 大学に3年以上在学した者、外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めたもの
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成25年3月までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 他の大学に3年以上在学し、当該大学大学院に入学した者で、本学大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもの
- (10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時において22歳に達しているもの

注1. 出願資格(6)及び(9)に該当する者については、出願前に入学資格の確認をする必要があるため、平成24年12月13日(木)までに学生支援部入試課に照会してください。

注2. 出願資格(10)については、短期大学、高等専門学校、専修学校（出願資格(7)に該当する者を除く。）、各種学校の卒業生やその他教育施設の修了者等であっても、個別の入学資格審査により本学大学院への入学資格を認めることができるとしたものです。これにより出願する者は、平成24年12月13日(木)までに学生支援部入試課に照会してください。

<筆記型を出願する者>

筆記型を出願する者は、英語能力試験の成績証明書の提出が必要となります。ただし、以下の表のように、電気電子工学専攻電気コース志願者は希望者のみで、それ以外の専攻・コースは必須です。

専攻	コース	英語能力試験の成績証明書の提出
機械・エネルギーシステム工学専攻	機 械	必須
電気電子工学専攻	電 気	希望者のみ
知能情報システム工学専攻		必須
応用化学専攻		必須
建設工学専攻		必須
福祉環境工学専攻	建 築	必須
	メカトロニクス	必須

3. 出願手続

(1) 出願期間

平成25年1月21日(月)から1月25日(金)まで(必着)

ア 受付時間は、午前9時から午後5時までとします。

イ 郵送の場合は、本学所定の封筒を用い、書留速達にしてください。

(2) 提出先

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 大分大学学生支援部入試課

注. 出願を希望する者は、あらかじめ志望する専攻の希望する指導教員と研究内容についてご相談の上、出願してください。

4. 出願書類等

書類名	備考
(1) 入学志願書	裏面の履歴書も必ず記入してください。写真は上半身、正面向きで、本人であると確認できるものを所定の欄に貼付してください。
(2) 受験票	写真は上半身、正面向きで、本人であると確認できるものを所定の欄に貼付してください。
(3) 成績証明書	(4) 卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書 最終出身学校長又は学部長発行によるもの
(5) 学士の学位授与証明書又は学士の学位授与申請申立書	
(6) 英語能力試験の成績証明書 注1)	筆記型を出願する場合、電気電子工学専攻電気コース志願者は希望者のみ、それ以外の専攻・コースは必須です。 ※成績証明書は下の部分を切り離さずに全体を提出してください。 ※持参で出願する場合、原本とコピーの両方を提出してください。(原本は確認後返却します。)
(7) 入学検定料払込証明書 (30,000円) ※国費外国人留学生を除く	①②のいずれかの方法でお支払いください。 ①金融機関(郵便局を含む)でお支払いの場合 本学所定の振込用紙を用い、必ず窓口でお支払いください。(ATM不可) お支払い後は「振替払込受付証明書(大学提出用)」を受験票の貼付欄に貼ってください。 ②コンビニエンスストア(一部)でお支払いの場合 下記のURLから申し込み、受付番号を入手後コンビニエンスストアでお支払いください。 お支払い後は「収納証明書(コンビニエンスストアによっては領収書)」を受験票の貼付欄に貼ってください。 ・パソコンからの本学ホームページ(http://www.oita-u.ac.jp/) メニュー→入試情報→入学検定料のコンビニ収納から申し込んでください。 ・携帯電話からの申し込みURL(https://www.oita-u.net/mobile/) ※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは、アクセスできないことがあります。 ※手数料は本人負担となります。 ※納付した検定料は返還できません。
(8) 返信用封筒 (受験票返送用)	本学所定の封筒。あて名等を明記し、350円分の切手を貼ったもの。 (郵送申込者のみ。ただし、口述型出願者は必ず提出してください。)
(9) 合格通知用住所シール	本学所定の用紙(4枚とも同じ住所・氏名を記入し、切り取らずに提出してください。)



注1) 出願書類(6)については、試験日の2年前から出願までの間に受験した下記のいずれかの英語能力試験の成績証明書(主催者等の証明印のあるもの)を提出してください。団体特別受験制度(カレッジTOEICもこれに含まれます)で受験した場合はScore Sheet(コピー不可)を提出してください。Score Sheetの原本は複写後、受験票に同封して返却します。なお、下記の5種類の英語能力試験科目の複数を受験した場合は、各自の判断で有利と思われるものを1つ選択して提出してください。

- ・TOEIC(R) (Test of English for International Communications (公開テスト))
- ・TOEIC(R)-IP (Test of English for International Communications—Institutional Program)
- ・TOEFL(R)-CBT (Test of English as a Foreign Language—コンピュータテスト)
- ・TOEFL(R)-PBT (Test of English as a Foreign Language—ペーパーテスト)
- ・TOEFL(R)-iBT (Test of English as a Foreign Language—インターネットテスト)

なおTOEFLの得点は、以下の方法により換算します。

- ・TOEFL-iBT, TOEFL-CBT の得点は ETS のウェブサイトにある換算表により TOEFL-PBT の得点に換算します。

5. 障がいのある者等の事前相談について

本学へ入学を志願する者のうち、障がいのある者等で、受験上及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、平成24年12月13日（木）までに、下記の事項を記載して（様式任意）、医師の診断書を添え本学学生支援部入試課に提出してください。

- ・ 障がいの種類・程度
- ・ 受験の際に特別な配慮を希望する事項
- ・ 修学の際に特別な配慮を希望する事項
- ・ 日常生活の状況及びその他参考となる事項

6. 選 抜 方 法

<筆記型>

入学者の選抜は、学力検査、面接及び成績証明書の結果を総合して行います。

7. 選抜日時及び試験科目

各専攻・コースに必要な試験科目を受験しなかった場合は、不合格となります。

試験科目 日時		外国語	専門科目		面接
		2月4日(月) 10時～	2月4日(月)13時～	2月5日(火)10時～	2月5日(火)
専攻	コース				
機械・エネルギー システム工学専攻	機 械		注1)熱力学, 流体力学	注1)機械力学, 材料力学	学力検査終了 後に行います。
電気電子工学専攻	電 気	注2) 英 語	電 磁 気 学 電 気 回 路	電 気 電 子 数 学 電 子 回 路	
福祉環境工学専攻	メカトロ ニクス		工 業 数 学	注1) 機械工学(機械設計 学, 材料学, 機械制御<い ずれも力学を含む>から出 題) 注1) 電気工学(電気回路, 電磁気学, 電子回路から出 題) の中から1科目選択	

試験科目 日時		専門科目	専門科目	面接
		2月4日(月)10時～	2月4日(月)13時～	2月5日(火)
専攻				
知能情報システム 工学専攻		情報工学(計算機工学, アルゴリズム 論, データベース論, 数理計画論, 多変 量解析の5分野の中から4分野を選択) ※科目名は情報工学です ※※解答する4分野を志願書に下記 の要領で記入してください。出 願後の受験分野の変更はでき ません。 記載例:①情報工学 (計算機工学) ... ④情報工学 (アルゴリズム論)	情 報 数 学	10時～

試験科目 日時		専門科目	専門科目	面接
		2月4日(月)10時～	2月5日(火)10時～	2月5日(火)
専攻				
応用化学専攻		注1)無機化学, 有機化学, 物理化学, 分析化学, 生物化学, 化学工学, 高分子化学の中から4科目選択		学力検査終了 後に行います。

試験科目 日時		専門科目	専門科目	面接
		2月4日(月)10時～	2月4日(月)14時～	2月5日(火)
専攻	コース			
建設工学専攻		注1) 建築環境工学, 建築計画及び都市計画	注1) 建築構造及び建築材料・建 築生産に関する科目 <構造力学, 材料力学, 各種建 築構造及び構造設計, 建築材料 並びに建築施工の各科目を含 む>	9時～
福祉環境工学専攻	建 築			

注1) 関数計算機能を持つ電卓の持込みが可能です。ただし、プログラムが組める電卓は不可です。

注2) 外国語試験科目における英語能力試験の導入について

電気電子工学専攻電気コースでは、外国語試験科目において、換算式を導入し、筆記試験と英語能力試験を併用します。この場合、英語能力試験の成績証明書(出願書類(6))を提出しない者は、必ず外国語試験を受験してください。英語能力試験の成績証明書を提出する者は、外国語試験を受験しなくてもよいが、受験した場合には、筆記試験の得点と英語能力試験から換算した得点の高い方を採用します。それ以外の専攻・コースでは、外国語試験は実施せず、英語能力試験の成績を採用します。

8. 試験会場

大分大学工学部

9. 合格者発表

合格者は、下記の日時及び場所に掲示するとともに本人に通知します。

日時 平成25年2月15日(金) 10時

場所 大分大学教養教育棟(第一大講義室)前掲示板

また、本学ホームページ(<http://www.oita-u.ac.jp/>)にも合格者受験番号を掲載します。

なお、電話による合否の照会には応じません。

10. 入学手続

合格者には、合格通知書とともに入学手続に必要な案内を送付します。

なお、在職のまま入学される方は、入学手続時に勤務先の入学承諾書を提出していただきます。

11. 入学料及び授業料

入学料 282,000円

授業料 535,800円(前期分 267,900円 後期分 267,900円)

(1) 授業料は前期と後期に分けての納付になります。ただし希望により前期分納付の際に後期分も合わせて1年分を納付することもできます。

(2) 入学料及び授業料については、免除・徴収猶予・奨学融資の制度があり、申請手続きは入学料・授業料の納付前に行う必要があります。

詳細については学生支援課奨学支援グループ(TEL 097-554-7386)までお問い合わせください。

(3) 入学料、授業料は改定の可能性があります。在学中に授業料改定が行われた場合には、新授業料が適用されます。

(4) 納付した入学料は返還できません。

(5) 国費外国人留学生については、納付する必要はありません。

12. 注意事項

(1) 入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律及び国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシーに基づき、入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし、入学料・授業料免除(猶予)及び奨学金を申請した者にあつては、選考資料として利用します。

(2) 出願手続き後は、書類の変更及び検定料の払い戻しはできません。

(3) 記載事項に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

(4) 最初に受験する科目の試験開始時刻の15分前までに各試験室に入室してください。

(5) 改姓・改名により、現在の氏名と出願書類の氏名が相違する場合は、改姓・改名の事実が証明できる書類を提出してください。

(6) 東日本大震災に関する特別措置(入学検定料等)につきましては、本学ホームページ「東日本大震災への対応に関する情報」に掲載しています。

社会人入試募集要項

趣 旨

近年科学技術は多様かつ急速に発展しており、創造性豊かな指導的立場に立ち得る技術者、研究者の養成が求められています。このような社会的要請に応えるため、各種の研究機関、企業又は教育機関等で活躍している社会人の研修の継続あるいは自己再教育の場として本学大学院工学研究科博士前期課程を開放し、併せて、生涯教育に寄与することを目的としています。

1. 募 集 人 員

専 攻	コース	講 座	募集人員
機械・エネルギーシステム工学専攻	機 械	機械システム	若干名
電 気 電 子 工 学 専 攻	電 気	制御コミュニケーション, 電磁ダイナミクス	若干名
知能情報システム工学専攻		情報科学基礎, 計算機システム, 知能システム	若干名
応 用 化 学 専 攻		工業化学基礎, 応用生物化学, 機能物質化学	若干名
建 設 工 学 専 攻		環境計画, 構造設計	若干名
福 祉 環 境 工 学 専 攻	建 築	人間環境工学	若干名
	メカトロニクス	人間基礎工学, 人間システム工学	

※機械・エネルギーシステム工学専攻エネルギーコース及び電気電子工学専攻電子コースは、募集を行いません。

2. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者で、2か年以上官公庁、企業又は教育機関等に勤務の経験のあるもの

- (1) 平成23年3月以前に大学を卒業した者
- (2) 平成23年3月以前に大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者
- (3) 平成23年3月以前に外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの
- (6) 本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

注1. 出願資格(5)については、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生やその他教育施設の修了者等であっても、個別の入学資格審査により本学大学院への入学資格を認めることができるとしたものです。これにより出願する者は、平成24年12月13日(木)までに学生支援部入試課に照会してください。

注2. 出願資格(6)に該当する者については、出願前に入学資格の確認をする必要があるもので、平成24年12月13日(木)までに学生支援部入試課に照会してください。

3. 出 願 手 続

- (1) 出願期間

平成25年1月21日(月)から1月25日(金)まで(必着)

ア 受付時間は、午前9時から午後5時までとします。


イ 郵送の場合は、本学所定の封筒を用い、書留速達にしてください。

- (2) 提出先

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 大分大学学生支援部入試課

注. 出願を希望する者は、あらかじめ志望する専攻の希望する指導教員と研究内容についてご相談の上、出願してください。

4. 出願書類等

書類名	備 考
(1) 入学志願書	裏面の履歴書も必ず記入してください。写真は上半身、正面向きで、本人であると確認できるものを所定の欄に貼付してください。
(2) 受験票	写真は上半身、正面向きで、本人であると確認できるものを所定の欄に貼付してください。
(3) 成績証明書	最終出身学校長又は学部長発行によるもの
(4) 卒業(修了)証明書	
(5) 学士の学位授与証明書	大学評価・学位授与機構が証明したもの(出願資格(2)該当者のみ)
(6) 研究(希望)計画書	本学所定の用紙に、博士前期課程で学修したい研究課題(又は研究分野)及びその概要について1,000字以内にまとめたもの
(7) 職務経歴書	本学所定の用紙に、研究・業務歴及び研究業績を記入してください。研究論文、技術報告、特許・実用新案等がある場合は、その業績を表す文書等の写しを添付してください。
(8) 入学検定料払込証明書 (30,000円)	<p>①②のいずれかの方法でお支払いください。</p> <p>①金融機関(郵便局を含む)でお支払いの場合 本学所定の振込用紙を用い、必ず窓口でお支払いください。(ATM不可) お支払い後は「振替払込受付証明書(大学提出用)」を受験票の貼付欄に貼ってください。</p> <p>②コンビニエンスストア(一部)でお支払いの場合 下記のURLから申し込み、受付番号を入手後コンビニエンスストアでお支払いください。 お支払い後は「収納証明書(コンビニエンスストアによっては領収書)」を受験票の貼付欄に貼ってください。</p> <p>・パソコンからの本学ホームページ(http://www.oita-u.ac.jp/)  メニュー→入試情報→入学検定料のコンビニ収納から申し込んでください。</p> <p>・携帯電話からの申し込みURL(https://www.oita-u.net/mobile/) ※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは、アクセスできないことがあります。</p> <p>※手数料は本人負担となります。 ※納付した検定料は返還できません。</p>
(9) 返信用封筒 (受験票返送用)	本学所定の封筒。あて名等を明記し、350円分の切手を貼ったもの。(郵送申込者のみ)
(10) 合格通知用住所シール	本学所定の用紙(4枚とも同じ住所・氏名を記入し、切り取らずに提出してください。)

5. 障がいのある者等の事前相談について

本学へ入学を志願する者のうち、障がいのある者等で、受験上及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、平成24年12月13日(木)までに、下記の事項を記載して(様式任意)、医師の診断書を添え本学学生支援部入試課に提出してください。

- ・ 障がいの種類・程度
- ・ 受験の際に特別な配慮を希望する事項
- ・ 修学の際に特別な配慮を希望する事項
- ・ 日常生活の状況及びその他参考となる事項

6. 選抜方法

入学者の選抜は、書類審査及び面接試験の結果を総合して判定します。

7. 面接試験の日程、内容

専攻	コース	日 程	内 容
機械・エネルギーシステム工学専攻	機 械	平成 25 年 2 月 5 日 (火) 午後	面接試験では、専門科目(志望する教育研究分野に関連した科目)、英語(外国の大学を卒業した外国人の志願者は英語と日本語)、研究業績、研究計画書等に関して口述試験を行います。また、研究(希望)計画書及び職務経歴書について試問します。
電気電子工学専攻	電 気		
応用化学専攻			
建設工学専攻		平成 25 年 2 月 5 日 (火) 午前	
福祉環境工学専攻	建 築	平成 25 年 2 月 5 日 (火) 午後	
	メカトロニクス		
知能情報システム工学専攻		平成 25 年 2 月 5 日 (火) 10 時～	

注1) 面接試験を受験しなかった場合は、不合格となります。

8. 試験会場

大分大学工学部

9. 合格者発表

合格者は、下記の日時及び場所に掲示するとともに本人に通知します。

日 時 平成 25 年 2 月 15 日 (金) 10 時

場 所 大分大学教養教育棟 (第一大講義室) 前掲示板

また、本学ホームページ(<http://www.oita-u.ac.jp/>)にも合格者受験番号を掲載します。

なお、電話による合否の照会には応じません。

10. 入学手続

合格者には、合格通知書とともに入学手続きに必要な案内を送付します。

なお、在職のまま入学される方は、入学手続き時に勤務先の入学承諾書を提出していただきます。

11. 入学料及び授業料

入学料 282,000 円

授業料 535,800 円 (前期分 267,900 円 後期分 267,900 円)

(1) 授業料は前期と後期に分けての納付になります。ただし希望により前期分納付の際に後期分も合わせて1年分を納付することもできます。

(2) 入学料及び授業料については、免除・徴収猶予・奨学融資の制度があり、申請手続きは入学料・授業料の納付前に行う必要があります。

詳細については学生支援課奨学支援グループ (TEL 097-554-7386) までお問い合わせください。

(3) 入学料、授業料は改定の可能性があります。在学中に授業料改定が行われた場合には、新授業料が適用されます。

(4) 納付した入学料は返還できません。

12. 注意事項

(1) 入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律及び国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシーに基づき、入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし、入学料・授業料免除(猶予)及び奨学金を申請した者にとっては、選考資料として利用します。

(2) 出願手続き後は、書類の変更及び検定料の払い戻しはできません。

(3) 記載事項に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

(4) 最初に受験する科目の試験開始時刻の15分前までに各試験室に入室してください。

(5) 改姓・改名により、現在の氏名と出願書類の氏名が相違する場合は、改姓・改名の事実が証明できる書類を提出してください。

(6) 東日本大震災に関する特別措置(入学検定料等)につきましては、本学ホームページ「東日本大震災への対応に関する情報」に掲載しています。

13. その他

社会人入学者等について、長期履修制度を認めています。

長期履修制度とは、標準修業年限(2年)を超えて、4年以内の期間で計画的に教育課程を履修し修了することができる制度です。この間の授業料は、履修期間に応じて按分することとしています。申請は、入学手続き時です。

工学研究科博士前期課程案内

工学研究科博士前期課程は、学部における一般的及び専門的教養を基礎として、広い視野に立って工学の専攻分野を研究し、高度な学識と研究能力を養うものです。修業年限は2年で、各専攻所定科目について所定の単位を修得し、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者には、修士（工学）の学位が授与されます。

1 専攻の概要

〈機械・エネルギーシステム工学専攻〉

複雑化・高度化した現在、科学技術は、従来の機械工学・電気工学といった縦割りの学問形態のみでは対応困難となっています。本専攻では、専門領域の知識のみならず、それら枠組みを越えて幅広く問題を捕らえる視野をもった人材の養成を目指します。

このため、学生は、当初から各講座の研究室に属して、担当教員の指導のもとに専門領域の勉学研究を行うとともに、機械的・電氣的領域を中心として他の関連領域を身に付けるよう配慮されています。

〈電気電子工学専攻〉

学部で修得した専門的知識及び技術を基礎として、電気電子工学の分野で指導的な役割を果たす創造性豊かな研究者及び技術者の育成を目的としています。

このため、電気電子工学全般にわたる広い知識を身につけ、より精密な学識と研究及び研究指導能力を養うことに重点を置き、電気電子工学の分野に必要な授業科目が選択できるよう配慮しています。また学生は、制御コミュニケーション、電子デバイス工学、電磁ダイナミクス及び電子情報システム工学のいずれかの講座に属し、担当教員の指導により社会的要求に応え得る能力を身に付けるようになっています。

〈知能情報システム工学専攻〉

近年、情報処理システムは、スーパーコンピュータに見られる高速処理、学術情報システムに見られる大量処理、認知科学や人工知能に見られる知的処理等、急速に複雑かつ高度化が進みつつあります。

本専攻は、これらの進展に対処するため、基礎情報学、計算機工学、知識科学等にわたる高度の研究教育を行い、時代の要請する専門技術者、研究者及び教育者を養成することを目的としています。

〈応用化学専攻〉

本専攻では、化学の諸分野において指導的な役割を果たし得る研究者、技術者、教育者の育成を目的としています。特に近年、問題化してきた環境に配慮しながら、新素材、バイオ技術を開発できる第一線の研究者の育成を主な目的としています。このため、化学全般にわたる広い知識を教授し、これを実際の装置へ応用する能力を養い、かつ環境問題、エネルギー問題の解決に役立つための講義と研究指導が行われます。また、特定テーマについて研究を行い、実験を計画し、実行し、成果を解析するという第一線の研究者として必要不可欠な能力が育成されるように配慮されています。

〈建設工学専攻〉

本専攻は、学部で修得した建設工学全般にわたる基礎的知識・技術を基に、さらに advanced course としての建設工学及びこれに関連する分野の専門的素養を持った高度な技術者、研究者、教育者の育成をはかります。

学生は、担当教員の指導のもとに、講義等に参加し、勉学を行うことで高度な学識を修得します。また、環境計画（音光熱空気の建築環境と設備・建築計画・都市計画を含む）及び構造設計（建築材料・建築構造を含む）などの研究室に属し、指導教員のもとに専門的研究を行います。

〈福祉環境工学専攻〉

本専攻は、21世紀の福祉社会の要請に応える生活の質（QOL）の向上に貢献することを目的とし、日常生活における機能回復への支援や福祉的生活環境の実現、さらにはユニバーサルデザインなどに関する技術を総合的工学の立場から発展させ、福祉マインド、すなわち人間とそれを取り巻く環境をひとつのシステムとして考えられる人間性重視の設計思想をもった高度技術者及び研究者を養成するための教育・研究を行います。

2 専攻別授業科目

専攻	授業科目	授業科目
機械・エネルギーシステム工学専攻	機械設計学特論	粘性流体工学特論
	材料力学特論第一	流体計測特論
	材料力学特論第二	粘性流体工学特論演習
	熱工学特論第一	弾性力学特論第一
	熱工学特論第二	弾性力学特論第二
	伝熱学特論	電磁アクチュエータ特論
	流体工学特論	電磁流体工学特論第一
	流体力学特論	電磁流体工学特論第二
	流体機械特論	電磁エネルギー工学特論第一
	振動工学特論	電磁エネルギー工学特論第二
	機械力学特論第一	エネルギー制御工学特論
	機械力学特論第二	エネルギー変換工学特論演習第一
	精密加工学特論	エネルギー変換工学特論演習第二
	機械システム特論演習第一	非線形システム特論第一
	機械システム特論演習第二	非線形システム特論第二
	機械システム特論演習第三	電磁気計測工学特論
	熱流体工学特論第一	電気機器工学特論
	熱流体工学特論第二	電力工学特論第一
	熱エネルギー解析工学特論	情報処理特論第一
	熱エネルギー解析工学特論演習	情報数理特論第一
	移動プロセス学特論	分離工学特論
	移動プロセス学特論演習	特別研究

専攻	授業科目	授業科目
電気電子工学専攻	電磁気学特論第一 電磁気学特論第二 制御工学特論 制御システム特論 通信工学特論 音響工学特論 電気エネルギー工学特論 電気機器工学特論 電力工学特論第一 電力工学特論第二 信号処理工学特論 電子物性特論第一 電子物性特論第二 電気力学特論 電子回路特論第一 電子回路特論第二 電子機器特論 情報伝送工学特論第一	情報伝送工学特論第二 電子システム特論 電磁波工学特論第一 電磁波工学特論第二 応用電子工学特論 電気電子工学演習第一 電気電子工学演習第二 電磁エネルギー工学特論第二 伝熱学特論 流体力学特論 情報処理特論第一 計算機システム特論第一 知能システム特論第一 認知科学特論 生体システム特論 特別研究
知能情報システム工学専攻	情報数理特論第一 情報数理特論第二 情報数理特論第三 数理工学特論第一 数理工学特論第二 生体システム特論 情報処理特論第一 情報処理特論第二 情報システム特論第一 情報システム特論第二 計算機システム特論第一 計算機システム特論第二 計算機システム特論第三 計算機設計特論 システムプログラミング特論第一 システムプログラミング特論第二 システムプログラミング特論第三 人工知能特論第一 人工知能特論第二 認知科学特論	知能システム特論第一 知能システム特論第二 知能システム特論第三 知識工学特論第一 知識工学特論第二 データベース特論 ロボティクス特論 コンピュータグラフィクス特論 通信工学特論 情報工学演習第一 情報工学演習第二 システム工学演習第一 システム工学演習第二 情報システム特別実習ⅠA 情報システム特別実習ⅠB 情報システム特別実習ⅡA 情報システム特別実習ⅡB 学外特別研究 特別研究
応用化学専攻	固体表面化学特論 有機材料化学特論 セラミックス化学特論 材料工学特論 分離工学特論 機能材料化学特論 高分子材料化学特論 分析化学特論 生体模倣化学特論 生物物理化学特論	無機構造解析特論 応用化学特別演習第一 応用化学特別演習第二 応用化学特別演習第三 応用化学特別実験第一 応用化学特別実験第二 システムプログラミング特論第一 伝熱学特論 生体システム特論 情報処理特論第一 学外特別研究 特別研究

専攻	授業科目	授業科目
建設工学専攻	建築環境工学特論第123 建築環境工学特論第311 建築環境工設計画特論第123 建築環境設備設計画特論第311 建築・都市デザイン特論第123 福祉建築設計画特論第123 都市設計画特論第123 都市設計特別演習第123 建築設計特別演習第123 建築構造法特論第123 建築木質構造設計特論第123 建築構造設計特論第123 建築構造特論第123 建築構造力学特論第123	建築材料工設計特論第123 建築耐久設計特論第123 建築生産工学特論第123 建築俯瞰特論第123 建築環境設計演習第123 建築設計特論演習第123 建築構造設計演習第123 建築材料設計演習第123 建築環境設計演習第123 建築構造設計演習第123 建築材料設計演習第123 建築音響工学特論第123 生体システム特論第123 知能システム特論第123 知識工学特別研究 建築設計インターンシップ 特別研究
	身体運動工学特論第123 人間工学特論第123 人体運動解析法特論第123 運動機能工学特論第123 生体情報システム工学特論第123 認知人間工学特論第123 環境情報学特別研究 人間基礎工学特別講義 人間基礎工学特別講義 人間環境工学特別講義 機能材料特論第123 機能材料特論第123 福祉音響機器特論第123 福祉ロボット工学特論第123 福祉ロボット工学特論第123 電磁アクチュエータ特論第123 福祉メカトロニクス特論第123 人間情報工学特論第123 機器回路設計特論第123 機器制御機器特論第123 機器制御機器特論第123 人間システム工学特別研究 人間システム工学特別講義 福祉環境工学ゼミナール 福祉環境工学ゼミナール 建築環境工学特論第123	建築環境工設計画特論第123 建築設備設計画特論第123 建築設備設計画特論第123 建築・都市デザイン特論第123 福祉建築設計画特論第123 都市設計画特論第123 都市設計特別演習第123 建築設計特別演習第123 建築構造法特論第123 建築木質構造設計特論第123 建築構造設計特論第123 建築構造特論第123 建築構造力学特論第123 建築材料工設計特論第123 建築耐久設計特論第123 建築生産工学特論第123 建築俯瞰特論第123 建築環境設計演習第123 建築設計特論演習第123 建築構造設計演習第123 建築材料設計演習第123 建築環境設計演習第123 建築構造設計演習第123 建築材料設計演習第123 建築環境工学特別研究 建築設計インターンシップ 特別研究
福祉環境工学専攻	身体運動工学特論第123 人間工学特論第123 人体運動解析法特論第123 運動機能工学特論第123 生体情報システム工学特論第123 認知人間工学特論第123 環境情報学特別研究 人間基礎工学特別講義 人間基礎工学特別講義 人間環境工学特別講義 機能材料特論第123 機能材料特論第123 福祉音響機器特論第123 福祉ロボット工学特論第123 福祉ロボット工学特論第123 電磁アクチュエータ特論第123 福祉メカトロニクス特論第123 人間情報工学特論第123 機器回路設計特論第123 機器制御機器特論第123 機器制御機器特論第123 人間システム工学特別研究 人間システム工学特別講義 福祉環境工学ゼミナール 福祉環境工学ゼミナール 建築環境工学特論第123	建築環境工設計画特論第123 建築設備設計画特論第123 建築設備設計画特論第123 建築・都市デザイン特論第123 福祉建築設計画特論第123 都市設計画特論第123 都市設計特別演習第123 建築設計特別演習第123 建築構造法特論第123 建築木質構造設計特論第123 建築構造設計特論第123 建築構造特論第123 建築構造力学特論第123 建築材料工設計特論第123 建築耐久設計特論第123 建築生産工学特論第123 建築俯瞰特論第123 建築環境設計演習第123 建築設計特論演習第123 建築構造設計演習第123 建築材料設計演習第123 建築環境設計演習第123 建築構造設計演習第123 建築材料設計演習第123 建築環境工学特別研究 建築設計インターンシップ 特別研究

専攻	授業科目	授業科目
共通	関数解析学特論第1	システム設計解析特論
	関数解析学特論第2	応用力学特論演習1
	応用数学特論第1	システムLSI設計特論第1
	応用数学特論第2	システムLSI設計特論第2
	応用解析特論第1	生物工学特論I
	応用解析特論第2	生物工学特論II
	応用幾何学特論第1	触媒科学特論
	応用幾何学特論第2	環境材料科学特論
	応用代数学特論第1	英語表現法特論I
	応用代数学特論第2	英語表現法特論II
	光工学特論	MOT特論I
	非線形動力学特論	MOT特論II
	結晶工学特論	MOT特論III
	物理有機化学特論第1	MOT特論IV
	物理有機化学特論第2	MOT特論V
	ベンチャービジネス論A	
	学外特別実習B	
	学外特別実習	

平成 26 年度入学者選抜試験の出願資格の変更について（予告）

平成 26 年度入試から，電気電子工学専攻電子コース及び応用化学専攻において，一般入試（口述型）における出願資格を変更します。詳細は下記URLの本学ホームページに公表しています。

電気電子工学専攻電子コース

<http://www.oita-u.ac.jp/000008587.pdf>

応用化学専攻

<http://www.oita-u.ac.jp/000008163.pdf>

— 大分大学学生支援部入試課 —

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

TEL. 097-554-7519

FAX. 097-554-7472

(E-mail nyukikak@oita-u.ac.jp)

(URL <http://www.oita-u.ac.jp/>)